



環境経営 レポート

2024

(2024.4~2025.3)



大阪金属株式会社本社・和泉工場

/ HOYU 朋友金属株式会社



『2024年度 環境経営レポート

2025年6月30日 発行』

ページ

2	目次
3	環境経営方針
4	会社及び事業概要
5	会社及び事業概要(本社工場 生産の流れと製品)
6	環境経営システム組織図
7-8	環境経営目標とその実績
9-10	環境経営活動計画の取組結果：電気
11	〃　　：ガソリン、軽油使用量削減
12	〃　　：廃棄物排出量削減
13	〃　　：水使用量削減
14	〃　　：化学物質使用量削減、環境に配慮した生産・活動の推進
15	緑化活動、環境関連法規等の遵守状況、SDGs活動
16	次年度の取組内容
17	総評
18	代表者による全体評価と見直し・指示



経営理念

情熱・信念・和で業を磨き、人材と製品づくりを通して社会に貢献します。



情熱と信念で誇れる製品を作ろう(クレームゼロをめざす!!)

品質方針

私たちは「顧客のニーズ及び期待」の向上の為、優れた技術力と人材で「お客様に信頼される品質確保」を目指し、確かな製品を提供します。

又、品質マネジメントシステムの有効性を、継続的に改善して競争力のある強い企業を目指します。



環境経営方針 基本理念と行動

私たちは、社会の一員として、産業界への貢献を目指し、
人材と製品づくりを通して自主的かつ積極的に
環境保全活動に努め、環境経営の継続的改善に取り組み、
省資源、省エネの推進をし、
お客様から信頼される企業を目指します。

大阪金属株式会社

代表取締役 津田 岳彦

具体的に次のことを誓約します。

1. 環境関連法規の遵守
2. 電力及び燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
3. 原材料の節減、3R(減量・再使用・再生利用)の推進による廃棄物の削減
4. 水資源の節減
5. 化学物質使用量の管理、削減
6. 当社の製品及びサービスにおける、環境に配慮した
生産・活動の積極的取組
7. 全社員の環境学習の推進
8. 緑化活動による生物多様性への貢献
9. 「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加し、取り組む

この環境経営方針は、社外へも公表します。

制定日：2008年9月26日

改定日：2022年11月8日

代表取締役 津田 岳彦

1 事業者名及び代表者名

大阪金属株式会社
代表取締役 津田 岳彦



2 所在地

● 本 社

大阪府高石市高砂3丁目30番地

鑄物生産工場 併設



● 朋友金属(株)

大阪府和泉市春木町68番地

金属加工工場 併設



● 朋友金属(株) 河内長野出張所

大阪府河内長野市小塩町263

● 和泉工場

大阪府和泉市テクノステージ 1丁目3番5号

海外調達品の受入・検査
出荷センター



● 和泉第2工場

大阪府和泉市テクノステージ 3丁目5番17号

倉庫



● 筑波出張所

茨城県つくばみらい市坂野新田1-5 第2セタ-内

3 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

本 社 :	管理責任者 常務取締役
	推進委員 総務部課長
	推進委員 製造部課長
和泉工場 :	推進委員
朋友金属 :	推進委員

藤岡 直樹	TEL : 072-268-0151
佐久間 智恵	TEL : 072-268-0151
河口 敬佑	TEL : 072-268-0151
川本 雅幸	TEL : 0725-53-5050
住本 薫	TEL : 0725-53-3991

4 事業内容（認証・登録の範囲）

全組織・全活動

各種鑄物製品の開発・設計・製造・加工及び販売

5 事業の規模（2024年度）

- ・売上高（2024年度実績） 本社: 43,472万円 和泉工場 : 224,959万円 朋友金属: 196,726万円
- ・本社工場生産量 月産200トン（能力規模）
- ・従業員 67名（内数：本社17名, 和泉工場13名, 筑波出張所2名, 朋友金属(株) 35名）
- ・建屋規模（床面積）

本社・本社工場	1,094 m ²
和泉工場	970 m ²
和泉第2工場	1,113 m ²
筑波出張所	992 m ²
朋友金属	1,719 m ²
朋友金属・河内長野出張所	662 m ²

6 事業年度

4月～3月

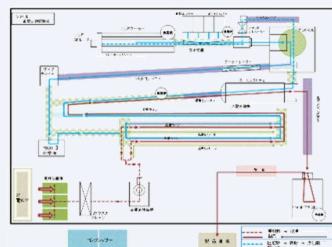
当社の製品は、過酷な環境で使用される各種機械の鋳造部品で、精密さと共に耐久性・堅牢性が求められます。

先進の鋳造テクノロジーと優れた生産システムを活かし高品質な製品をお届けしています。

FBOX-II ライン

当社の生産ラインは、簡易型、木型を問わず生産が可能で型交換が容易なため、多品種ロット生産にも迅速に対応します。微妙な元素の配合や鋳造・冷却温度の設定を可能にするなど、徹底した品質管理を行うことで、高品質な製品をお届けしています。

また、どの工程においても振動・騒音・粉塵・排水などの公害防止設備を設置し、工場をとり巻く周辺環境の安全性にも細心の注意をはらっています。



■生産工程と各段階での取り組み



受注

造型

溶解

注湯

仕上げ

検査

完成

- 効率の良い生産計画

- 化学物質の管理
- 廃棄物の削減

- 電力使用量の削減
- 水使用量の削減

- ショットブロストの時間短縮
- 廃棄物の削減、再資源化

- 品質管理による不具合対策

- 輸送の効率化

農業機械用部品



マニホールド



ホルダ



ケースフロントギア



ケースフロントアクスル



ケースフロントアクスル



ケースアンローダ



建設機械用部品



ペアリング



リンク



ヨーク



キャリアローラーカラー



カバーポンプ



産業機械用部品



回転フランジ



ボディ及びカバー

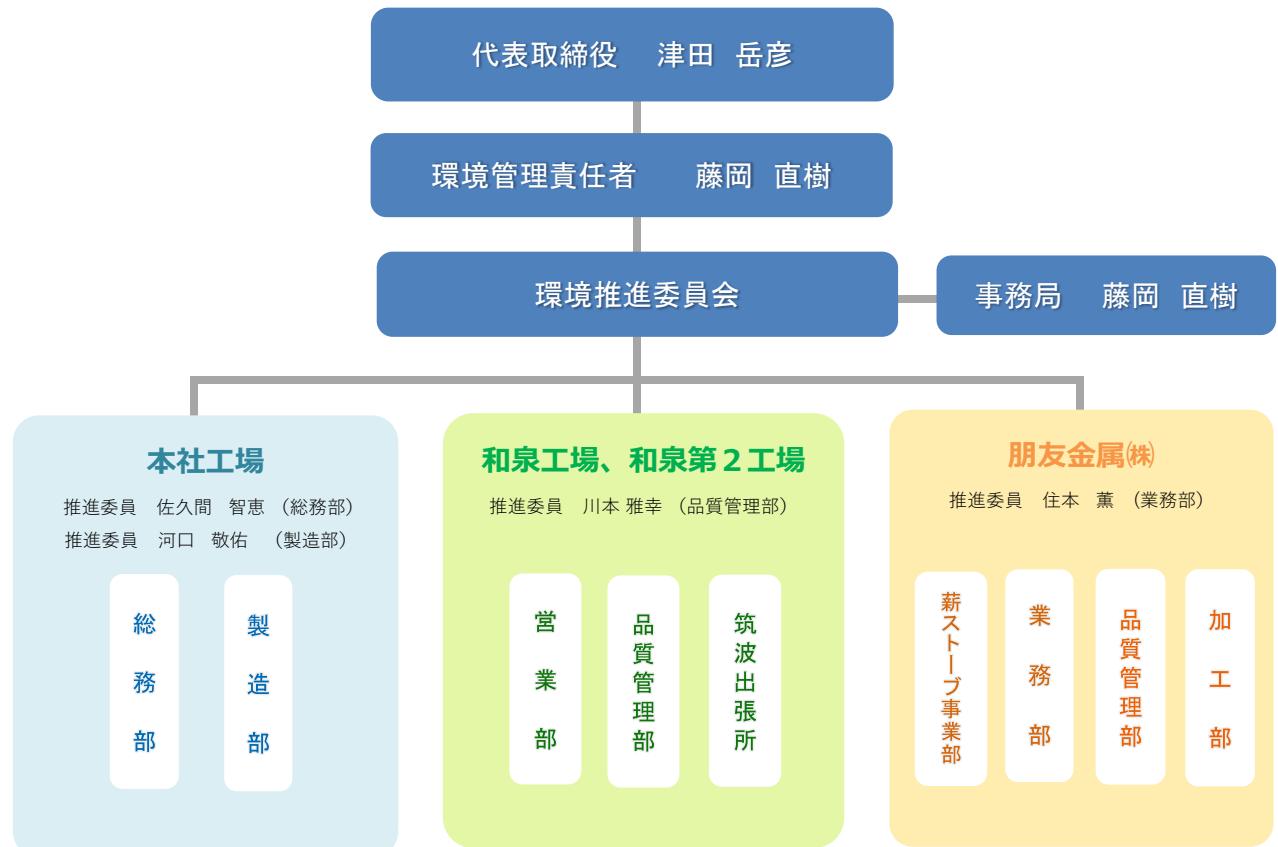


ギヤケース



環境経営システム組織図

2025年6月30日現在



役割・責任・権限	
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する最高責任者 ・環境経営システムの運用のために必要となる経営資源(人、設備、資金、情報等)を準備 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営方針の策定、全従業員へ周知 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者 環境推進委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築・実施・管理 ・「環境関連法規等の取りまとめ表」を承認 ・環境経営目標・活動計画書・環境経営レポートの確認 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告
環境推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境への負荷及び取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等取りまとめ表」の作成及び遵守評価の実施 ・環境経営目標・活動計画書の作成 ・活動実績集計 ・外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの実施 ・環境経営方針の周知 ・活動計画の実施及び達成状況の報告 ・緊急事態への対応のためのテスト・訓練・記録
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・決められたことを守り、部門長の指示に従い取組を実行する ・自主的かつ積極的に環境活動へ参加

環境目標項目	対象サブ別	前年度	2024年度(4~3月)				次年度目標	中期目標
		2023年度	目標	実績	達成率	前年比		
規 模	本社工場	生産量(t) 従業員	1,427 17人	-----	1,438 17人	--	101%	-----
		出荷量(t) △外出荷量(t)	5,934 752	-----	5,399.2 556.2	--	91% 74%	-----
	和泉工場 /和泉第2	従業員	14人	-----	13人	-----	-----	-----
		取扱量(t) 従業員	1,596.4 2人	-----	1,124.5 2人	--	70% -----	-----
	筑波	総出荷量(t)	8,283	-----	7,079.9	--	85%	-----
		業務販売量(t) 加工生産量(t)	7,379 811	-----	5,968 930	--	81% 115%	-----
	朋友金属	計 取扱量(t) 従業員	8,190 36人	-----	6,898 35人	--	84% -----	-----
		-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
二酸化炭素排 出量 (kg-CO2)	本社	総量	730,226	722,924	720,169	100.4% ○	-1.4% 削減	712,968 684,161
		原単位 生産量(t)	511.7 /t	506.6 /t	500.8 /t	101% ○	-2.1% 削減	495.8 /t 475.8 /t
	和泉工場	総量	26,188	25,926	23,538	110% ○	-10.1% 削減	23,303 22,361
		原単位 出荷量(t)	4.41 /t	4.37 /t	4.36 /t	100% ○	-1.2% 削減	4.32 /t 4.14 /t
	和泉第2	総量	5,523	5,468	623	877% ○	-88.7% 削減	617 592
		原単位 出荷量(t)	0.93 /t	0.92 /t	0.12 /t	798% ○	-87.6% 削減	0.11 /t 0.11 /t
	筑波	総量	3,842	3,804	3,951	96% ✕	2.8% 増加	3,911 3,753
		原単位 取扱量(t)	2.41 /t	2.38 /t	3.51 /t	68% ✕	46.0% 増加	3.48 /t 3.34 /t
	3拠点計	総量計	35,553	35,197	28,112	125%	-20.9% 削減	27,831 26,706
		原単位 取扱量(t)	15.33 /t	15.18 /t	24.00 /t	63% ✕	56.6% 増加	23.76 /t 22.80 /t
	朋友	総量	125,543	124,287	165,557	75% ✕	31.9% 増加	163,901 157,279
		原単位 取扱量(t)	15.33 /t	15.18 /t	24.00 /t	63% ✕	56.6% 増加	23.76 /t 22.80 /t
	CO ₂	総量計	891,322		913,838		2.5% 増加	
		太陽光発電による排出軽減量	19,156		19,296		2.5% UP	
【参考】2023年 度実績の調整後 排出係数による 二酸化炭素排 出量 (kg-CO2)	本社	総量	1,007,306		960,212		-4.7% 削減	
		和泉工場	32,781		29,130		-11.1% 削減	
		和泉第2	7,605		840		-89.0% 削減	
		筑波	3,366		3,765		11.9% 増加	
		朋友金属	166,016		214,091		29.0% 増加	
	和泉工場	総量計	1,217,074		1,208,037		-0.7% 削減	
		排出係数 kg-CO ₂ /kWh	0.434/0.390(筑)		0.419/0.431(筑)			
エネルギー 使用量 の削 減	電気 (kWh)	本社	総量	2,252,688	2,230,161	2,222,612	100% ○	-1.3% 削減
			原単位 生産量(t)	1,579 /t	1,563 /t	1,546 /t	101% ○	-2.1% 削減
		和泉工場	総量	53,601	53,065	51,774	102% ○	-3.4% 削減
			原単位 出荷量(t)	9.03 /t	8.94 /t	9.59 /t	93% ✕	6.2% 増加
		和泉第2	総量	16,928	16,759	2,004	836% ○	-88.2% 削減
			原単位 出荷量(t)	2.85 /t	2.82 /t	0.37 /t	761% ○	-87.0% 削減
		筑波	総量	7104	7,033	7,136	99% ✕	0.5% 増加
			原単位 取扱量(t)	4.45 /t	4.41 /t	6.35 /t	69% ✕	42.6% 増加
	朋友	業務	総量	10,164	10,062	9,449	106% ○	-7.0% 削減
		加工	総量	318,886	315,697	439,940	72% ✕	38.0% 増加
			原単位 生産量(t)	393.0 /t	389.0 /t	473.0 /t	82% ✕	20.4% 増加
		総量計	2,659,371 kWh		2,732,915 kWh		2.8% 増加	
	太陽光発電量	本社	61,594 kWh		62,046 kWh			
		和泉						
	ガリン (L)	本社 (*1)	総量	265.64	使用量の把握	367.15	-	38.2% 増加
		和泉工場	総量	517.2	512.0	290.14	176% ○	-43.9% 削減
			原単位 総出荷量(t)	0.063 /t	0.062 /t	0.041 /t	152% ○	-35.0% 削減
		筑波	総量	256.7		297.2	次年度より削減	15.8% 増加
			原単位 取扱量(t)	0.161 /t		0.264 /t	目標設定	64.1% 増加
		朋友	総量	2,149	2,128	1,533	139% ○	-28.7% 削減
			原単位 取扱量(t)	0.262 /t	0.260 /t	0.222 /t	117% ○	-15.3% 削減
		総量計	2,666 L		1,823 L	(筑波除く)	-31.6% 削減	

*購入電力CO₂排出係数：2021年度調整後排出係数【本社、和泉、和泉第2、朋友】0.311kg-CO₂/kWh(関西電力)、
【筑波】0.457kg-CO₂/kWh(東京電力エナジー・パワー) 【2022年度～2026年度の5年間は固定の排出係数を採用】

環境目標項目	対象サブ別	前年度	2024年度(4~3月)				次年度目標	中期目標
		2023年度	目標	実績	達成率	前年比		
エネルギー削減 の削減 使用量	軽油 (L) 	本社(*1)	-	-	-	-	-	-
		和泉 (キャラバン)	総量 原単位 総出荷量(t)	1,055.8 0.127 /t	1,045.2 0.126 /t	778.2 0.110 /t	134% ○ -14% 削減	-26.3% 削減 770.4 0.109 /t
		朋友	総量 原単位 取扱量(t)	4,329 0.529 /t	4,286 0.523 /t	5,024 0.728 /t	85% × 72% ×	16.0% 増加 37.8% 増加 4,973 0.721 /t
		総量計		5,385 L		5,802 L		7.7% 増加
		本社 鉱さい	総量 原単位 生産量(t)	394.30 0.276 /t	390.36 0.274 /t	356.20 0.248 /t	110% ○ 110% ○	-9.7% 削減 -10.4% 削減 352.64 0.245 /t
産業廃棄物 排出量の削減 (t)		和泉 木くず	総量 原単位 出荷量(t)	91.79 0.0155 /t	90.87 0.0153 /t	57.52 0.0107 /t	158% ○ 144% ○	-37.3% 削減 -31.1% 削減 56.94 0.0105 /t
		筑波 木くず	総量 原単位 取扱量(t)	13.77 0.0086 /t	13.63 0.0085 /t	18.88 0.0168 /t	72% × 51% ×	37.1% 増加 94.6% 増加 18.69 0.0166 /t
		朋友 廃ゴラ	総量 原単位 取扱量(t)	25.00 0.00305 /t	24.75 0.00302 /t	19.78 0.00287 /t	125% ○ 105% ○	-20.9% 削減 -6.1% 削減 19.58 0.00284 /t
		総量計		525 t		452 t		-13.8% 削減
		本社	総量 原単位 生産量(t)	2,746.0 1.924 /t	2,718.5 1.905 /t	2,729.0 1.898 /t	99.6% × 100% ○	-0.6% 削減 -1.4% 削減 2,701.7 1.879 /t
水使用量の 削減 (m³)		和泉 (延べ184人)	総量 1人当たり/月	162.0 0.818/人 /月		155.0 0.842/人 /月	-	-4.3% 削減
		朋友 生活用水 (延べ371.5人)	総量 1人当たり/月	421.2 1.083/人 /月	421.2 1.083/人 /月	467.2 1.258/人 /月	90% × 86% ×	10.9% 増加 16.2% 増加 467.2 1.258 /月
		加工部	総量 原単位 生産量(t)	144 0.1775 /t	使用量の把握 0.1775 /t	144 0.1548 /t		0.0% 115% ○
		総量計		3,329 m³		3,495 m³		5.0% 増加
		ヘキサメチレン トライ	総量 原単位 生産量(t)	7.83 0.0055 /t	7.75 0.0054 /t	11.59 0.0081 /t	67% × 67% ×	48.0% 増加 46.9% 増加 11.47 0.0080 /t
化学物質使用 量の削減 (kg)		本社 ナトリウム	総量 原単位 生産量(t)	175.5 0.123 /t	173.7 0.122 /t	205.0 0.143 /t	85% × 85% ×	16.8% 増加 15.9% 増加 202.95 0.141 /t
		マンガン	総量	3,412.5 kg		3,256.5 kg		-4.6% 削減
		炭化ケイ素	総量	1,181.0 kg		1,260.3 kg		6.7% 増加
		酸化ホウ素	総量	46.8 kg		145.5 kg		210.9% 増加
		和泉(*2)			微量の為、使用量の経過観察を行う			
環境に配慮し た生産・活動 の推進		エチルベンゼン	総量 原単位 取扱量(t)	15.77 kg 0.00193 /t	15.61 kg 0.00191 /t	10.68 kg 0.00155 /t	146% ○ 123% ○	-32.3% 削減 -19.6% 削減 10.57 kg 0.00153 /t
		キシレン	総量 原単位 取扱量(t)	21.54 kg 0.00263 /t	21.33 kg 0.00260 /t	15.39 kg 0.00223 /t	139% ○ 117% ○	-28.6% 削減 -15.2% 削減 15.24 kg 0.00221 /t
		トルエン	総量 原単位 取扱量(t)	18.24 kg 0.00223 /t	18.06 kg 0.00221 /t	2.87 0.00042 /t	629% ○ 530% ○	-84.3% 削減 -81.3% 削減 2.84 kg 0.00041 /t
		ジエタノール アミン	総量 原単位 取扱量(t)	7.00 kg 0.00086 /t		7.00 0.00102 /t		次年度より削減 目標設定 6.93 kg 0.00101 /t
		本社	不良率%	6.5%	6.0%	5.7%	105% ○	-0.3% 低減 6.0%
環境意識の 向上		和泉	海外品不良率%	1.50%	1.49%	1.51%	99% ×	0.02% 増加 1.49%
		朋友	不良返品率%	2.50%	2.48%	3.03%	82% ×	0.6% 増加 3.00%
		本社	環境教育	6 回	6 回	6 回	100% ○	
		和泉	環境教育	6 回	6 回	6 回	100% ○	
		朋友	環境教育	4 回	6 回	4 回	67% ×	
								6 回 6 回 6 回 6 回

各サイトの使用燃料の内、灯油・LNG・LPG・都市ガスの各使用量は、季節要因もあり量的にも僅少で、当面環境目標としての扱いはしないこととした。

又、本社のガソリン及び軽油についても当面、環境目標としての扱いはしない。(*1)

和泉工場の化学物質使用量については、微量の為、環境目標としての扱いはしない。(*2)

●電気使用量削減

■本社 電気使用量削減

目標：2023年度実績の1%削減(原単位)

●目標達成手段

- ・不要な照明を消す
- ・空調の適正管理
- ・トラブル防止
- ・メンテナンスの強化
- ・工場機械用品の作業効率化

電気	目標	実績	評価
原単位	1,563 kWh/t	1,546 kWh/t	○
総量	太陽光発電：排出軽減量差引 2,230,161 kWh	1,502 kWh/t 2,222,612 kWh	○

デマンド監視装置の故障のトラブルも発生しましたが、目標は達成できました。



○主な電力消費設備



電気使用量削減の取組

○自動垂直割トッププローシェル造型機(AT3型)

・2024年7月 2台入替
老朽化した手動のものから半自動
製造が可能な造型機へ入替ること
により、作業の効率化・省人化を
図ります。これにより電力使用量
削減が期待できます。



●高生産性設備

水平割抜粹造型機FBOX-II

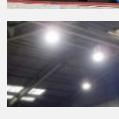
●高効率・省エネ設備

コンプレッサ



●発電設備

太陽光発電



●LED照明

○エネルギー源別のCO2排出割合

本社CO2排出割合



■和泉工場/筑波出張所 電気使用量削減

目標：2023年度実績の1%削減(原単位)

●目標達成手段

- ・不要な照明を消す
- ・ショットblastの時間短縮

和泉工場

電気	目標	実績	評価
原単位	8.94 kWh/t	9.59 kWh/t	✗
総量	53,065 kWh	51,774 kWh	○

総量は削減できましたが、目標である原単位は前年度より増加し未達成となりました。

*和泉工場での太陽光発電による削減量は、本社へ集約して計上しています。

和泉第2工場

電気	目標	実績	評価
原単位	2.82 kWh/t	0.37 kWh/t	○
総量	16,759 kWh	2,004 kWh	○

第2工場は、使用量の集計方法の変更により大幅に良い達成率となりました。

筑波出張所

電気	目標	実績	評価
原単位	4.41 kWh/t	6.35 kWh/t	✗
総量	7,033 kWh	7,136 kWh	✗

筑波は、2023年度比で取扱量が70%減少（2022年度比で51%減少）したにもかかわらず使用量が増えたので目標未達成となってしまいました。

和泉工場 電気使用量



ショットblast エアコン



電動式移動倉庫

和泉第2工場 電気使用量

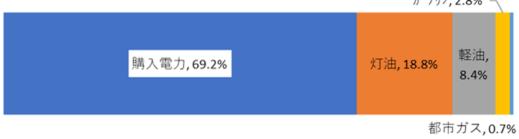


筑波 電気使用量



○エネルギー源別のCO2排出割合

和泉工場CO2排出割合





●電気使用量削減

朋友金属 電気使用量削減

目標：2023年度実績の1%削減(原単位)

工場

●目標達成手段

- ・不要な照明、電気機器の電源OFF
- ・効率の良い生産計画

電気	目標	実績	評価
原単位	389.0 kWh/t	473.0 kWh/t	✗
総量	315,697 kWh	439,940 kWh	✗

工場は生産量は前年度比で増加しましたが、それ以上に電気使用量が増えた為、原単位でも目標未達成となりました。



業務(事務所、出張所)

●目標達成手段

- ・不要な照明、電気機器の電源OFF
- ・空調の温度設定(夏：28°C、冬20°C)

電気	目標	実績	評価
総量	10,062 kWh	9,449 kWh	○

事務所の電気使用量は削減でき、目標達成となりました。



脱炭素化に向けた取組

□ 脱炭素経営宣言 大阪 登録

登録事業者は府からブッシュ型で、脱炭素の取組実態に応じた様々な支援メニューを受けることができます。



□ OSAKAセントラル・スマートシティ・ファウンデーション 参加

「持続可能な開発目標（SDGs）」に関する一層野心的で先進的な取組みを大阪から具体化し、これを全国へと波及させることによって、我が国が目指す2050年の脱炭素化社会実現における先導的な役割を果たしていくことを目的としています。



□ 大阪府気候変動対策の推進に関する条例 届出

大阪府気候変動対策の推進に関する条例に基づき特定事業者以外の事業者として実績報告しています。

●ガソリン使用量削減

■ 和泉工場

ガソリン使用量削減

● 目標達成手

- ・アイドリングストップ
- ・適正速度の実施

ガソリン	目標	実績	評価
原単位	0.062 L/t	0.041 L/t	○
総量	512 L	290 L	○

目標達成となりました。

筑波は2025年度から目標を設定し取り組みます。



■ 朋友金属

ガソリン使用量削減

● 目標達成手

- ・効率的な運転
- ・アイドリングストップ
- ・迅速な不具合対策

ガソリン	目標	実績	評価
原単位	0.260 L/t	0.222 L/t	○
総量	2,128 L	1,533 L	○

エルグランドから電気自動車リーフに入れ替えた結果、ガソリン使用量が削減できました。



ガソリン使用量削減の取組

● ハイブリッドカー



フィールダー



プリウス

● 電気自動車



リーフ

● バッテリー式フォークリフ



● 軽油使用量削減

■ 和泉工場

軽油使用量削減

目標：2023年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手

- ・アイドリングストップ
- ・適正速度の実施

キャラバン

軽油	目標	実績	評価
原単位	0.126 L/t	0.110 L/t	○
総量	1,045 L	778 L	○

目標達成できました。



和泉工場ではフォークリフトはすべてバッテリー車に切り替えたので軽油使用はキャラバンのみです。

■ 朋友金属

軽油使用量削減

目標：2023年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手

- ・効率的な運転
- ・アイドリングストップ

軽油	目標	実績	評価
原単位	0.523 L/t	0.728 L/t	×
総量	4,286 L	5,024 L	×

年々軽油使用量が増加しています。取扱量が減少しても運搬頻度は減らないという状況になっており、原因解明し取組を考えなければなりません。



軽油使用量削減の取組

● バッテリー式フォークリフへの変更



● トラックの効率的な運送計画

- ・可能な限り製品を積載する

- ・適切なルート計画

●廃棄物排出量削減

貢献するSDGs 

■本社 廃棄物排出量削減

目標：鉱さい 2023年度実績の1%削減(原単位)

●目標達成手段		・シェル砂の無駄を省く ・フィルターの清掃	
鉱さい	目標	実績	評価
原単位	0.274 t/t	0.248 t/t	○
総量	390.4 t	356.2 t	○



主砂の粒度調整に取組み、3月度より新砂投入を制限できるようになりました。

廃棄物排出量削減の取組

- 中子不良を減らすように努めています



鉱さいは鋳物製造の工程で発生する廃棄物で、すべて再資源化されています。



*有価物の古砂を除いた鉱さいのみを対象としています。

■和泉工場／筑波 廃棄物排出量削減

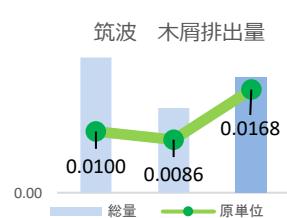
目標：木くず 2023年度実績の1%削減(原単位)

●目標達成手段		・網スキット(パレテーナ)への移行	
和泉	目標	実績	評価
木くず	0.0153 t/t	0.0107 t/t	○
原単位	90.9 t	57.5 t	○



和泉工場は目標達成できました。

筑波	目標	実績	評価
木くず	0.0085 t/t	0.0168 t/t	×
原単位	13.6 t	18.9 t	×



筑波は取扱量が前年より約472t減少したにもかかわらず、木くずの排出量が増加しました。

廃棄物排出量削減の取組

- 梱包材の見直しとリユース



パレテーナを中国に返送しリユース
2024年度実績：400ケース返却

■朋友金属 廃棄物排出量削減

目標：廃プラ 2023年度実績の1%削減(原単位)

●目標達成手段		・リユース ・リサイクル	
廃プラ	目標	実績	評価
原単位	0.00302 t/t	0.00287 t/t	○
総量	24.8 t	19.8 t	○



前年度に引き続き、排出量、原単位ともに削減目標を達成しました。

廃棄物排出量削減の取組

- パレテーナのサイズに合わせた袋の使い分け



●パレテーナ袋のリユース
出来る限りリユースし、破れたもの、
錆びを発生させる汚れが付着した袋の
みを廃棄



*一廃の総排出量も、昨年度より削減しています。

●水使用量削減

貢献するSDGs



■本社 水使用量削減

目標：2023年度実績の1%削減(原単位)

●目標達成手段

・節水の呼びかけ

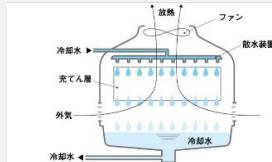
水	目標	実績	評価
原単位	1.905 m³/t	1.898 m³/t	○
総量	2,718.5 m³	2,729.0 m³	×



目標達成できました。

水使用量削減の取組

クーリングタワー 水使用量の徹底管理



クーリングタワーは、水が蒸発する際に熱を奪う気化熱の原理を利用した冷却装置です。この原理を使って冷やした冷却水を円滑に循環させる必要があります。そのためには補給すべき水量を把握し、運用できるよう取り組んでいます。

■和泉工場 水使用量削減

目標：現状維持に努める(原単位)

●目標達成手段

・節水の呼びかけ

水	目標	実績	評価
1人当たり	1.000 m³/人	0.842 m³/人	○
総量	—	155 m³	

和泉工場 水使用量

年	総量 (m³)	原単位 (m³/t)
2020	180	1.022
2021	181	1.006
2022	222	1.200
2023	162	0.818
2024	155	0.842

増減

2022年比 -30%

現状維持ができました。

水使用量削減の取組

●洗濯のまとめ洗い



洗濯機は、まとめて洗い洗濯回数を減らすようにしています。

●節水の呼びかけ



■朋友金属 水使用量削減

目標：2023年度実績値を維持する(原単位)

●目標達成手段

・節水の呼びかけ

水	目標	実績	評価
原単位	1.083 m³/人	1.258 m³/人	×
総量	421.2 m³	467.2 m³	×



生活用水の目標は前年度実績値ですが、総量、原単位ともに前年度を上回り目標未達成となりました。

加工部の水使用量は前年度と同量でした。

○水使用量が多い設備

水使用量削減の取組

●節水の呼びかけ

ポスター



2台の洗濯機

加工部の切削油に混合する水使用状況

水	前年度実績	2024年度実績
原単位	0.1754 m³/t	0.1548 m³/t
総量	144.0 m³	144.0 m³

● 化学物質使用量削減

貢献するSDG s

■ 本社 化学物質使用量削減

目標：2023年度実績の1%削減(原単位)



・使用量の徹底管理

ホウ酸ナトリウム



・“ヘキサメチレンテトラミン”を含む製品

『ハードコート2E』

(用途) 造型時の溶湯による荒らされ(鋳肌不良)を防ぐために鋳型の表面に塗布

・“ホウ酸ナトリウム”を含む製品

『パッキング材HA17/パッチ改Y』

(用途) 处理鍋作成時に使用

○その他の使用量を記録・管理している化学物質

・マンガン

・トルエン

・炭化けい素 SiC

・硫化 (2.4.4-トリメチルベンゼン)

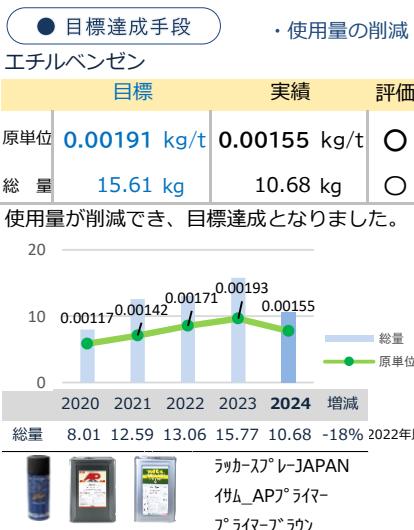
・酸化ホウ素

・n-ヘキサン

・モリブデン化合物

■ 朋友金属 化学物質使用量削減

目標：2023年度実績の1%削減(原単位)



* 2025年度からジエタノールアミンを追加し削減に取り組みます。

・使用量の徹底管理

キシレン



トルエン



化学物質使用量削減の取組

○管理表等による使用量管理

○使用量適正化

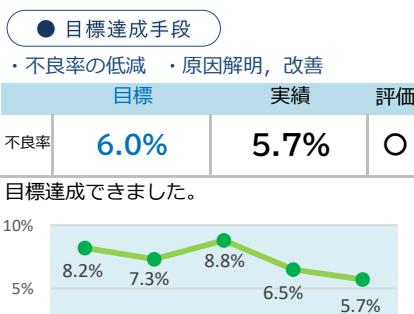
○対象化学物質を使用しない製品への変更の検討

● 環境に配慮した生産・活動の推進

環境に配慮した生産・活動として不良率を最小限に抑えることを目指しています。

■ 本社

不良率 ISO品質目標と同一



環境に配慮した生産・活動の推進の取組

○毎月本社でISO品質会議を行い、プロセス管理を通して不良品対策、不良率低減に努めています。

● 目標達成手段

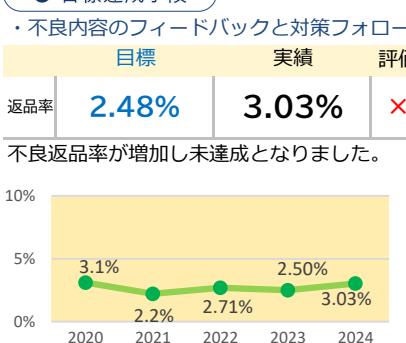
・不良上位3の対策を図る



● 朋友金属

不良返品率 2023年度実績の1%低減

● 目標達成手段



●緑化活動による生物多様性への貢献

貢献するSDGs



生物多様性の保全の為に緑化活動に取り組んでいます。 緑化スペースの維持に努めました。



●環境関連法規等の遵守状況

法規制等	評価	評価方法又は対策内容	対象
廃棄物処理法	遵守	大阪府報告 マニフェスト管理	本社、和泉工場、朋友金属
水質汚濁防止法	遵守	協同組合内処置 30m³/日 厳守	本社
大気汚染防止法	遵守	高石市ばいじん数値報告 集塵機設置	本社
消防法	遵守	市町村 1回/3年 点検実施報告書	本社、和泉工場、朋友金属
CO2排出抑制法	遵守	簡易外観点検 1回/3ヶ月	本社、和泉工場、朋友金属
粉塵障害防止及びじん肺法施行規則	遵守	労働基準監督署報告 1回/3年	本社
労働安全衛生法	遵守	リスクアセスメントの実施 1回/1年	本社、和泉工場、朋友金属
"	遵守	健康診断	本社、和泉工場、朋友金属
騒音規制法	遵守	特定施設設置届出	朋友金属
振動規制法	遵守	特定施設設置届出	朋友金属
浄化槽法	遵守	1回/1年 定期検査、清掃1回/3ヶ月	朋友金属

環境関連法規等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

代表取締役 津田岳彦

SDGs活動

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



全ての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

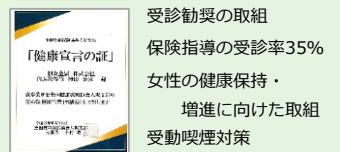
・熱中症対策



・受動喫煙対策



・健康宣言



社員の検診受診率100%受診奨励の取組
保険指導の受診率35%女性の健康保持・
増進に向けた取組受動喫煙対策



質の高い教育をみんなに

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

- ・環境教育
- ・資格手当制度



ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

- ・ハラスメント防止対策



働きがいも経済成長も

すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびデイセント・ワークを推進する

- ・高年齢労働者の労働災害防止対策

- ・労働環境改善



産業と技術革新の基礎をつくろう

リサイクルなインフラを整備し、持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

つくる責任つかう責任

持続可能な消費と生産のパターンを確保する

・紀陽SDGs私募債



地域貢献とSDGs

・和泉テクノFCサポーターズクラブ プラチナ会員
地域のスポーツクラブの活動をサポートしています。



3 全ての人に健康と福祉を
11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナーシップで目標を達成しよう

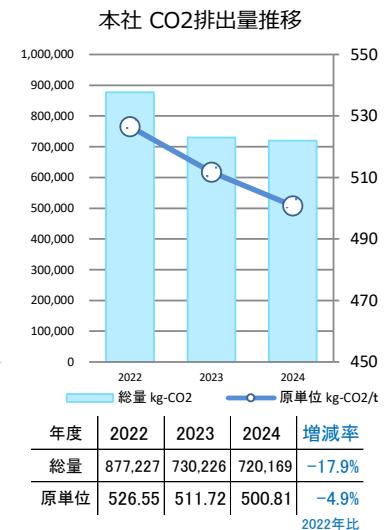
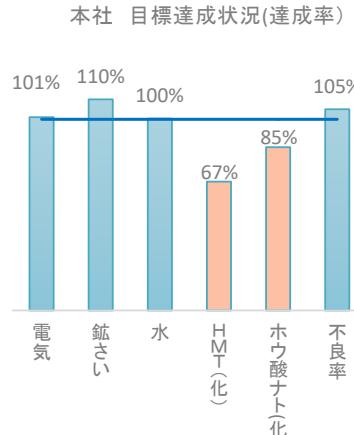
次年度の取組内容

二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	次年度目標： 2024年度実績に対し 1 % 減
全社	エネルギー使用量をサブ全体で共通して1%削減を目標に取組み、結果として同等量の排出減を目指す (2022年度のCO2排出量の算定係数を用いる 関西電力0.311kg-CO2/kWh, 東京電力0.457kg-CO2/kWh)
電気使用量 (kWh)	次年度目標： 2024年度実績に対し 1 % 減
本社	・工場機械用品の作業効率化及びメンテナンス強化・不要な照明を消す・空調の適温化・トラブル防止
和泉工場、和泉第2、筑波	・不要な照明を消す・ショットblastの時間短縮
朋友金属加工	・効率のよい生産計画・不要な照明の電源OFF
朋友金属業務	・空調の温度設定・不要な照明、電気機器の電源OFF
ガソリン使用量 (L)	次年度目標： 2024年度実績に対し 1 % 減
本社	(特に定めず)
和泉工場	・アイドリングストップ・適正速度の実施
朋友金属	・アイドリングストップ・効率的な運転・迅速な不具合対策
軽油使用量の削減	次年度目標： 2024年度実績に対し 1 % 減
本社	(特に定めず)
和泉工場、和泉第2	・アイドリングストップ・適正速度の実施
朋友金属	・アイドリングストップ・効率的な運送計画
廃棄物排出量の削減	次年度目標： 2024年度実績に対し 1 % 減
本社	鉱さい・フィルターの清掃・シェル砂の無駄を省く
和泉工場、筑波	木くず・木箱から網キットへの移行
朋友金属	廃プラ・リサイクル・リユース率を上げ排出量を抑制する
水使用量の削減	次年度目標： 【本社】2024年度実績に対し1%減 【和泉工場】現状維持【朋友金属】2024年度実績を維持
本社	・節水のよびかけ・クーリングタワーのメンテナンス
和泉工場	・手洗い場、食堂、トイレ、洗濯場等での節水ポスターによる節水のよびかけ
朋友金属	・手洗い場、食堂、トイレ、洗濯場等での節水ポスターによる節水のよびかけ
化学物質使用量の削減	次年度目標： 2024年度実績に対し 1 % 減
本社	・取扱に注意し使用量を少量ですませるよう心掛ける、使用量の徹底管理
和泉工場	・使用量の把握・注意をはらって取り扱う
朋友金属	・取扱に注意し使用量を少量ですませるよう心掛ける、使用量の徹底管理
環境に配慮した生産・活動の推進	次年度目標： 【本社】不良率6% 【和泉工場・朋友金属】2024年度実績に対し 1 % 減
本社	・不良率の低減・上位3位の対策を図る
和泉工場	・海外品の不良率の低減
朋友金属	・不良内容のフィードバックと対策フォロー
環境意識の向上	次年度目標： 環境教育・環境活動の実施回数：年6回
全社	・環境意識向上のため、環境教育を行う。
緑化活動による生物多様性への貢献	
本社、和泉工場、朋友金属	・緑化スペースの維持
「プラスチック・スマート」キャンペーン参加・継続	
本社、和泉工場、朋友金属	・「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加し、取り組む

本社

2024年度、本社工場での生産量は0.7%の微増となりましたが、CO2排出量削減目標を達成する事が出来ました。また、電気使用量もデマンドの故障のトラブルが発生しましたが、目標は達成出来ました。

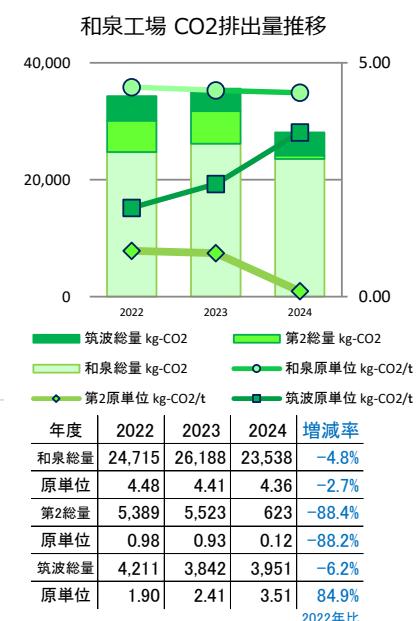
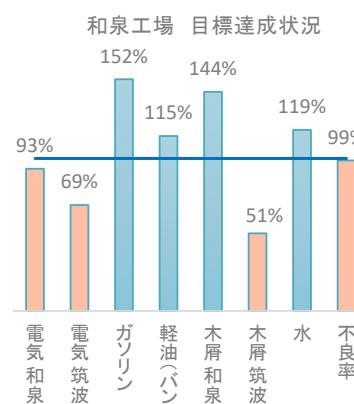
2025年度もCO2排出量を削減する意識を持って目標達成に努めます。



和泉工場

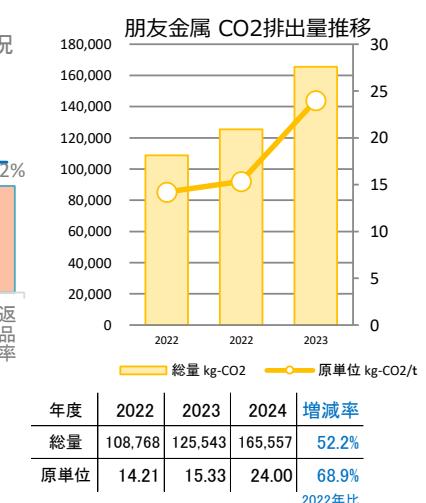
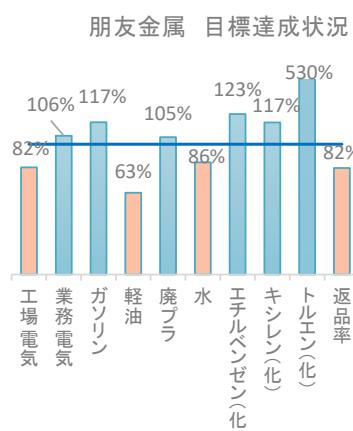
2024年度、和泉工場、第2工場ともCO2排出量削減目標を達成しましたが、筑波出張所は一部の製品を和泉工場へ移したこと、また電力とガソリンのどちらの使用量も増加したことで効率が悪くなり未達成となりました。

2025年度は目標値設定の見直しを行い、目標達成に努めます。



朋友金属

2024年度は、加工生産量が前年度比で15%増加した一方で、全体の取扱量は16%減少しました。取扱量が減少しているにもかかわらず、CO2排出量に大きく影響する電力使用量が前年度比で37%も増加したため、CO2排出量は目標を大幅に超過する結果となりました。2025年度の取扱量は前年度とほぼ同水準となる見込みであることから、生産性の向上と効率的な生産計画の推進により、エネルギー使用量の最適化とCO2排出量の削減を図りたいと思います。



総合評価

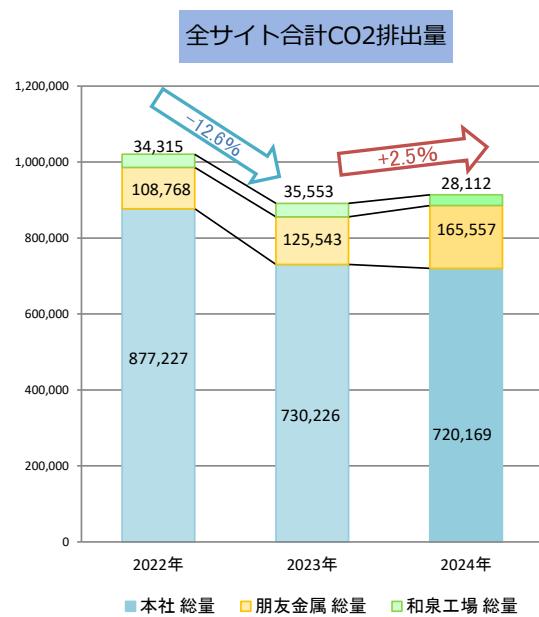
実施日：2025年6月5日

2024年度は、本社工場および朋友工場において生産量が前年度比で小幅に増加したものの、出荷量・取扱量は全体的に減少する結果となりました。そのような状況下においても、本社および和泉工場ではCO₂排出量の削減を達成し、良好な成果を収めました。気候変動の影響が一層大きくなる中にあっても、各拠点では大きなムダを生まず職場環境を維持できている点は評価できます。

特に本社では、化学物質削減を除くすべての原単位目標を達成し、環境活動の取り組みが高く評価できる結果となりました。また、和泉工場では電気使用量の原単位目標こそ未達成でしたが、実使用量の削減は実現しており、一定の評価ができます。その一方で、朋友金属および筑波出張所ではCO₂排出量が前年度を上回り、目標未達成となりました。なかでも朋友金属は前年度に引き続き多くの項目で目標未達成が続き、特に電力使用量の増加がCO₂排出量の大幅な増加につながりました。さらに筑波出張所では取扱高が大幅に減少したことでエネルギー効率が悪化しており、改善が急がれます。これらの影響により、全社トータルでのCO₂排出量は前年度比2.5%増となり、思わしくない結果となりました。目標未達成項目については要因を再点検し、改善策を早期に検討・実行していく必要があります。

次年度に向けては、各拠点がそれぞれの課題に応じた対策を講じ、目標達成に向けた取り組みを一層強化してまいります。とりわけ朋友金属は、CO₂排出量および電力使用量の増加が顕著であり、改善の最優先課題です。生産効率の見直し、省エネ対策の強化、設備稼働の最適化を重点的に実施しなければなりません。あわせて、筑波出張所については、業務プロセスの効率化と省エネ意識の徹底が求められます。さらに、全社共通の課題として、品質改善活動や3S活動を通じ、ムダの排除と作業効率の向上を推進してまいります。引き続き、継続的改善を実施し、脱炭素社会の実現に貢献するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）に基づく取り組みを推進してまいります。

<環境方針、目標の見直しについて>



	変更の必要性	代表者の指示
環境経営方針	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	現環境経営方針を維持する。
環境経営目標及び 環境経営計画	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	2025年度の環境経営計画目標値は、原則として前年度実績の1%削減として取り組む。 筑波は2025年度からガソリン削減目標を設定し取り組む。 朋友金属は化学物質削減にジエタノールアミンを追加し取り組む。
実施体制	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	現実施体制を維持する。